

校舎の歴史



木造校舎の変遷

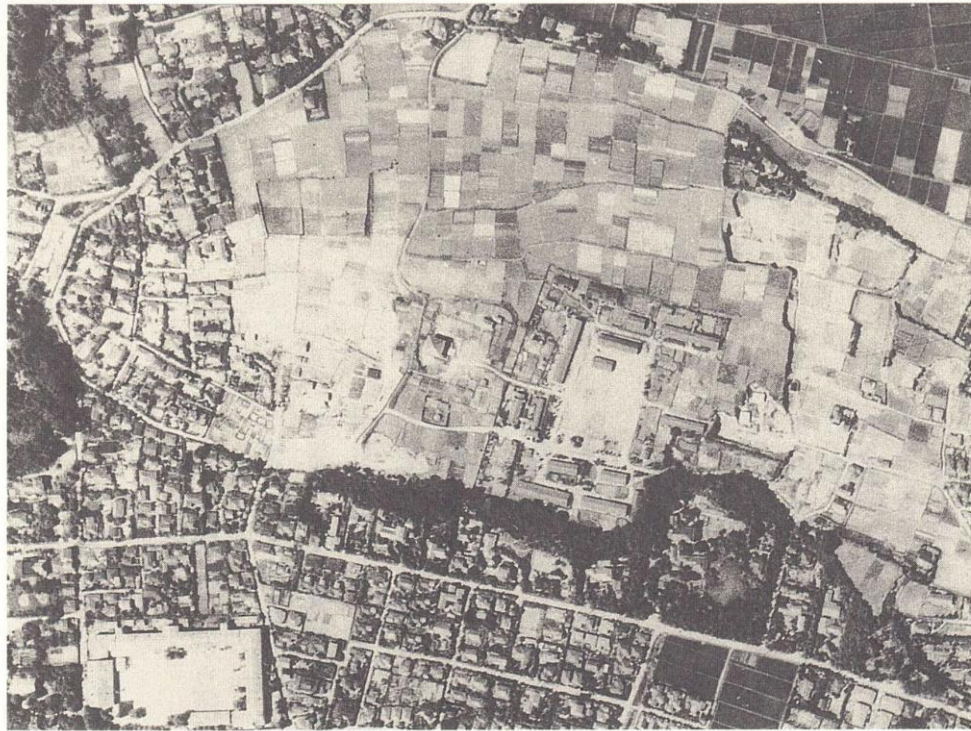
真間小学校舎から須和田へ

昭和二十二（一九四七）年五月十日、六・三制施行によって、わが市川市立第二中学校が誕生した。開校式・入学式は真間小学校講堂で行った。この時点で独自の校舎は未だなく、二中は真間小学校東側校舎二階のうち一年A・B・C・D・E組用の五教室と職員室用とで六教室を使った間借りの状態で始まったが、講堂や音楽室をはじめ運動場も優先的に使わせてもらった。この年の運動会は真間小学校と合同開催であったが学芸会は講堂を使って独自に行った。

校地は、はげ山と呼ばれていた須和田台地で、昭和二十二年度に四教室、二十三年度に十教室できる計画になっていた。校地の選定にあたっては父母も協力して適地を探して歩き廻ったという。新校舎の用途は立ったが、工事の着手は遅れに遅れていた。

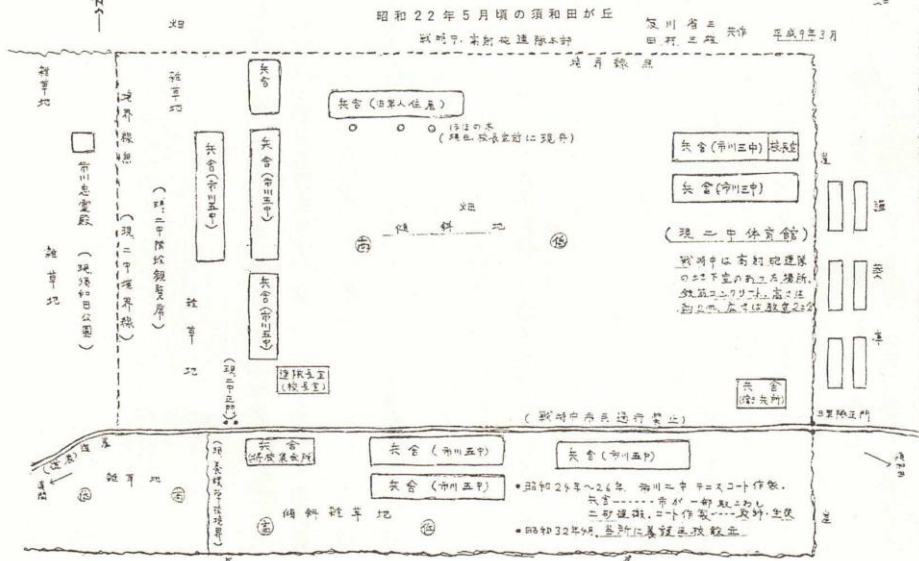
「中学校においては、まず校舎の確保が第一の問題であった。昭和二十二年、第一中学校は市川小学校に、第二中学校は真間小学校、第三中学校は須和田、旧防空本部兵舎、第四中学校は市立高等女学校、大柏中学校（のちの第五中学）は大柏小学校に同居といった具合である。それぞれの中学校は、第一中学校は市立高等女学校から国府台校舎に移転（二十四年）、第二中学校は須和田校舎（二十三年）、第三中学校と第四中学校は、八幡の旧京成工業学校校舎跡に移転した。のちに

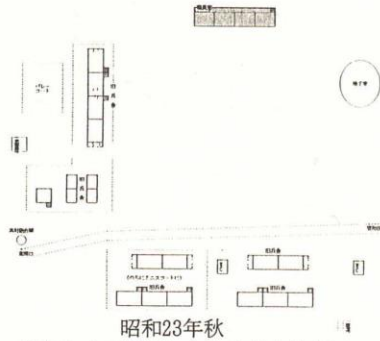
第三中学校は曾谷（二十四年）へ移転し、第四中学校は中山（二十五年）へ、第五中学校は大野（二十五年）へそれぞれ移転することとなった」だが、当時「市川市では、（略）各地に疎開していた人々が帰って来るとともに、新しい住民も次々に市川へ流入してきたこともあって、教室不足が問題化してきた。（略）物資の調達もままならず、欠陥の多い校舎が建てられた。このことによって、後になって、修理・改築を余儀なくされるのである」（『市川市民読本 改定版』昭和54年）



昭和22年7月の須和田が丘

昭和22年5月の須和田が丘の記憶
当時五中在職された笈川省三・田村三雄先生作図





昭和23年秋
新校舎（4教室）と兵舎教室推定図

昭和二十三年六月十六日、市側から、二中は真間小学校を出て国府台の旧陸軍兵舎跡に暫定的に移転してほしいとの申し入れあり。十八日、PTA役員会は国府台校舎並びに須和田校舎敷地を下見聞の後、暫定的に国府台へ生徒は移ることを決定。ところが二十日に市側から、国府台への移転は見合わせて貰いたいとの再度の申し入れで中止。また、八月四日、二中の校舎建設促進委員と真間小学校PTA役員とで市川二中校舎建設に関して合同協議会を行い、即日、市役所へ赴いて交渉。八月七日、校舎促進委員が市役所へ再度交渉。便所・当直室は希望通り作る約束をとりつける。

〔校内新聞〕1号 昭和23年9月10日

この校地予定地は旧陸軍高射砲第二連隊（晴一九〇一部隊）（笈川先生談）の跡地なので、開校当時は旧陸軍の施設がまだ残っていた。兵隊の宿舎用の平屋や二階建ての兵舎が広い敷地を囲むように、幾棟も散在していた。これらの兵舎は壊して燃料にされていつの間にか消えてしまったりもしたが、大部分は二中の教室不足を補った兵舎教室としてあと五年間のご奉公をしてくれた。

この兵舎群を利用して、当時の須和田が丘には二十二年五月市川三中が開校していた。また同時に現在の五中とはべつの「市川五中」（31ページ参照）も開校していた。そこへ二中がここを校地に定めて加わると全部で三校が集中することになり、いかに敷地が広かったからと云ってもこれは異常な状態であったと思われる。この状態は、二中の校舎の完成前の二十三年七月に三中が京成工業学校の跡地（現 富貴島小学校）へ移転（三中は翌年に曾谷の現校地に再度移転）し、さらに二十四年四月、「五中」と二中とが併合されて二中となった結果、解決した。

現在体育館のある場所には、戦時中に軍が掘った大きな地下壕がそのまま残っていたという。実際、校地の東端は切り立った崖になっていて生徒たちの格好の遊び場だったが、二十六年頃には崩れかけた崖の横腹に横穴の入り口の名残りが点在していたし、崖下に弾薬庫だったというコンクリートの数棟の建物があった。地下壕は敗色濃くなってからの通信施設だったといわれている。

この地下壕の上の位置に二十四年の第二期工事で四教室が建った。この校舎は建築後一年たらずで、土台が沈んで根太が浮いてしまったり、両側からガラス窓

が突然教室内へ倒れ落ちて来たりした。これらは当時の安普請が原因だと思っていたが、地下壕の話を聞くと、あながちそれだけでもなかったようだ。

三十三年に旧体育館を建設した場所もこの地下壕の上にあたる。創立時に教務主任だった笈川先生は奇し

くも戦時中にこの須和田が丘の部隊に所属しておられたので、「あんなに広い地下室を埋めた上に体育館を建てて大丈夫かと随分不安だった」と回顧されている。そこに現在鉄筋建築の体育館が堂々と建っているのを見ると杞憂にすぎなかったようだ。

木造校舎 第一期工事

昭和二十三（一九四八）年九月一日 木造平屋建新校舎一棟（四教室）と当直室、便所完成
この日から二中は千葉県市川市須和田二丁目四三〇番地（現須和田二丁目三四番一号）に存在することになった。

九月十五日に一部の生徒が真間小学校から須和田の新校舎へ引越しをした。新校舎の四教室に二年生の四クラスが入り、廊下の突き当たりを締め切り二年生を担当する先生用に職員室の分室を作った。旧兵舎を五中の三、二、一年生が使っていたので、二中が兵舎教室を使えるようになるのは二十四年度からである。したがって、この時須和田校舎へ引越したのは二年生四クラスだけであって、一年生は二十四年四月まで真間小学校での間借り状態が続いた。

嬉びの大移動

心なき雨に嬉びの日を一日遅らされた二百六十の二中生は、一年三月の永い思い出のこもる真間校の校舎を後にする。女生徒は手に手に雑巾、ほうき、バケツを下げて、先ず新校舎第一回の掃除に先発、その後を男生徒が重い机を肩に、どの顔も思いなしか紅潮して

いる。漠然とした期待、いや、はっきり希望とそれは言えるだろう、彼等の心の中にうごめいているものは。机、椅子そして又机の列が延々と続く。その間を縫うて、リヤカーが、大八車が荷物を山と積んで行く。木の香も新しい新校舎の中では——私達の学校。そう、今までは抽象的で形をもたぬ二中だったのが、今日か

らは新しい校舎を持つのだ。どっと雪崩込んだ女生徒の手で、すべての窓が開け放たれる。しばし感激に耽り、茫然と『私達の学校』を見回す彼女等は、次の瞬間には、世界中のあらゆる人々に勝った働き者になっていた。佐々木先生の指導で職員室の調度が運ばれる。草深、桜田、橋本先生の姿が、生徒の群れにまじって動く。こうして着々と新校舎の整備が行われて行く。真間校に残った組は又あと片づけに忙しい。私達に教室を貸す為に無理な二部授業をして下さった小学校に、一部分でも教室をおかえしできるのは又限らない嬉びだ。返却する教室は常にも増して入念な手入れが行われる。全校を挙げて歓喜のどよめきの中に、移転作業の終わったのは正午に程近い頃だった。こうして第一次の民族大移動は行われたのだった。整理を終わった新校舎に落ち着いた私達の更に願う事は既に計画されている第二次第三次の工事が、一日も早く行われて、早く二中の全生徒がひとつ学舎に学ぶ事の出来る事だった。

〔校内新聞〕2号 昭和23年10月14日

学校の移転

二B 小竹 忠夫

今日は僕達の学校の移転である。これまで校庭で野

九月十八日 市川五中と二中の職員、生徒の顔合わせ会を行った。須和田が丘には市川五中と二中の二校が開校していた。二中と五中とは校舎と校門は別々に分かれていたが、校庭は両校で共同使用することになっていた。この日、職員と生徒の全員が参加して顔合わせをした。

五中と二中の二校が同じ敷地にあるために互いに対立して生徒同士の揉めごとが起こったりするのを心配したのか、両校の生徒の懇談会を九月二十日に開いて

いる。これには両校から生徒会の委員が数名ずつ出席し、互いに問題があれば話し合うこと、両校の懇談会をたびたび開いていくことなどを申し合わせた。

十月二日 新校舎落成祝賀会が行われた。市川市長、市議会議員、PTA関係者はか七十余名の出席のもとに新校舎で開催した。来賓各位の祝辞の後、PTAの母親有志の手料理での宴会があった。

昭和二十三年十月十七日 新校舎落成記念体育祭・展覧会・バザー

新校舎の落成を自校の校庭ではじめての体育祭で祝った。これは学校とPTAが主催した体育祭と同時に展覧会とバザーも開かれるという大規模なものであった。

会を賑やかにしたいと多数の参加をよびかける次のような記事がある。

御挨拶

(略) 現在の日本に於いて兎も角も窓硝子の入った瓦ぶきの校舎に入れるという事は関係者として望外の喜びであると思います。一部の生徒は既に新校舎に移りましてその喜びを味わって居りますが、学校としましてはPTAの会員全部の方に共にその喜びを自己の喜びとして戴きたい。その一つと致しまして今回の運動会というものを新校舎落成記念という意味を含ませた一つの総合的な記念行事の一環として実施致したいと考えて居ります。

昨年度とは異なり小学校より独立致しまして中学校独自の運動会を初めて実施致す事に成りましたが何分

球をすることもできなかった。それには理由もあらうが僕達の頃は遊び盛りで野球をしたいのはあたりまえである。それが向こうの校舎へ行けば野球等ができるので僕達の喜びは例えようもないほどだった。学校の移転は始まった。女子は向こうの新校舎の掃除をして男子は机運びをするになりました。(略)

見る間に机を持った人で廊下は一杯になった。早く行くと押し合いながら、やっと外へ出た。机を持って歩き始めた。初めのうちは元氣よく歩いてしたが、だんだん行くにつれて道端で休む者が出てきた。僕達もがまんが出来なくなつて途中で休んだ。校舎が見えてきた。すると思つていたよりもよい建物であった。屋根は赤瓦で学校というかんじを与えた。やっと校舎へ着いてほつとした。しかし職員室がなかった。僕達を教え導く先生方のいるところもなく廊下の一部を区切って職員室をつくっているの、少し心細くなった。それから教室へ入った。すると教室は女子によつてきれいになっていた。それから皆が机を運んで来たので教室にはきれいに机が並び、皆席へ着いた。これからこのような気持ちのよいところで勉強することは幸せだと思つた。(校内新聞)2号 昭和23年10月14日

にも人数が少ないという事のために会自体が賑やかに出来るよう、当日は御見物に御出に成るだけでなく振るって御出場で下さいまして一日を生徒と共に楽しんで戴きたい。教育というものが学校のみにて行われるものではないと言う事は最近しばしば論ぜられております。(略)運動会も学校側と皆様が一体となつて実施してこそはじめてそこに和やかな楽しい、本当に教育的価値のある一日が過ごされるのではないかと考えて居ります。(略)

PTA会員各位

体育部

〔校内新聞〕号外 昭和23年10月16日

新校舎落成の記念樹を植えた。一期生がこれを計画したところ、須和田在住の勝山氏と南谷氏から



正面玄関 昭和27年3月竣工



昭和27年頃の校庭

校舎の歴史



木造校舎の頃

昭和二十四（一九四九）年五月十五日 木造平屋建校舎第二期工事竣工

予定より二カ月半遅れて新校舎七教室が完成した。既設四教室の東端に玄関が付きその続ぎに三教室と昇降口、更にかぎ形に曲がって東校舎四教室の計七教室と小使室と便所が増築された。新校舎はできたものの学級数十八に対して十一教室しかなく、特別教室や職員室を設けると教室はまだ不足していたから、一年生と二年生の教室や図工室、図書室、音楽室などには兵舎教室を使用した。

七月十日 新校舎落成記念祝賀会を市役所、学校関係者など八十余名を招待して行った。

九月 市内中学校陸上競技会に備えて運動場の拡張作業を行った。

二十五年三月 第一回卒業式

この日、市川市立第二中学校のはじめての卒業式が校庭で行われ、第一期生三〇〇名が卒業した。この後も入学式、卒業式は体育館のできる三十三年まで校庭で行われた。

「学校要覧」によると三月三十一日現在運動施設は、テニスコート一、バレーコート一、バスケットコート一、卓球台二となっている。

二十五年一月に石炭ストーブによる暖房が開始されたが割当のバケツ一杯の石炭では午後の暖房にはまわらなかった。日直当番の日は、ストーブ用の焚き付けを持って登校し、下校時のストーブ掃除を忘れると翌日は使用停止の罰があった。

二十六年三月 第二回卒業式

この日、卒業式が校庭で行われ、第二期生二八四名が卒業した。卒業記念に「国旗掲揚台」目録を贈っている。前年の講和条約締結を機に文部省は学校行事において「国旗」「国歌」の掲揚、斉唱をするように要請した。

木造校舎 第三期工事

昭和二十七（一九五二）年三月五日 木造平屋建校舎第三期工事竣工

木造平屋建校舎第三期工事が終了し、創立以来続いていた校舎の建設が一段落した。これで教室不足がやっと解消した。新校舎は、第一期校舎の西続ぎに、中庭を囲んで逆コの字形に建てられた。普通教室六と特別教室五（理科室、図工室、家庭科室、音楽室、図書室と各準備室）のほか校長室、職員室、事務室も整っていた。新しい玄関が新校舎と旧校舎の間をつないでいた。この新校舎の敷地のために忠霊塔寄りの斜面の一部を削って平らにした。現在、給食堂背後にある崖はその時にできたものである。

永い間教室として役立ってくれた旧兵舎はやっと不要になった。二十七年四月入学の六期生からは全て新校舎での勉学となり、兵舎は卓球などクラブ活動に使われた。

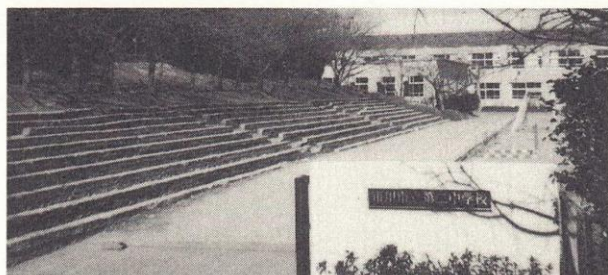
三月二十八日 第三期生の卒業式を校庭で行った。卒業式に先立って新校舎の落成式も行われた。

新校舎は淡いピンク色モルタルの壁・赤い瓦屋根のしゃれた建物であった。今回の建築工事はそれまでになく大規模なもので、これでやっと市川二中の創立期の校舎のすべてが完成した。特筆すべきは特別教室である。五つの特別教室はいずれも準備室を備えた専用の特別教室であって、それまでのような普通教室を割り

り当てた便宜上の特別教室とは本質的にちがっていた。卒業迄の一週間を新校舎で学ばせたいという学校側の配慮で、三月半ばごろ三年生が新校舎へ引っ越しをした。二年生、一年生の引っ越しは四月までおあずけであった。春休み中に兵舎の取り壊しをしたという記録があるが、詳細については不明である。

昭和二十八（一九五三）年九月一日 特殊学級校舎改築移転

特殊学級は、校地の南寄りにあった旧兵舎を利用して特殊学級としての設備をもった教室ができた



現在のスタンド

この年、運動場の整備と観覧スタンドの造成をすすめるために大規模な校庭の整備工事をした。この工事の過程で敷地内から古代住居跡が発見された。この三十二年四月、市立養護学校が新設され、同年四月十五日、運動場整備と観覧スタンド造成地の傾斜面を活かした立派なスタンドが完成した。

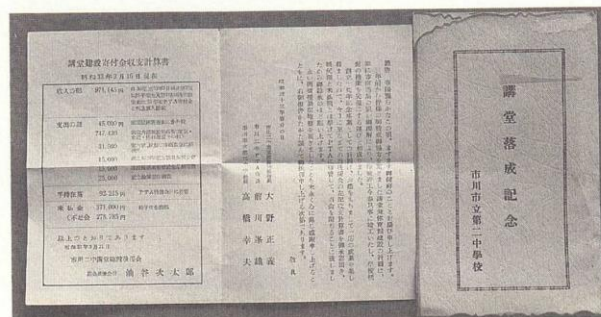
講堂兼體育館

昭和三十三年（一九五八）年二月十日 講堂兼体育館が完成
PTAの大野正義前会長が第六期生の卒業式で約束され、創立十周年記念行事として企画された講堂兼体育館（四六五・五平方メートル）が完成した。

市川二中講堂建設後援会、市川二中PTA、市川二中が協力して講堂兼体育館の建設を目指した。建物は市の予算でできたものの内部の施設や備品などは予算がないため、市川二中講堂建設後援会・市川二中PTAが主体となって卒業生、在校生、学校関係者から寄付金を募りこれでもかかなかった。募金の収支報告を兼ねて講堂落成記念の絵葉書を作り寄付金の拠出者に配布した。

同時期にPTAは運動場に野球用のバックネットを設置した。

校舎の歴史



報告書



堂講

ので移転した。その場所が、その後養護学校の敷地の一部になった。

三十年三月 六期生の卒業式を校庭で行った。

PTAの大野正義会長は、北風と小雨の中で举行了卒業式の祝辞のなかで、二中創立十周年記念行事として講堂を建てることを約束された。

このことは同年五月に発行された「二中同窓会会報」にしっかりと記録されている。この約束どおりに三年後に講堂兼体育館ができた。

祝

大野 正義

卒業の回を重ねること六回で、同窓会誌が創刊される由、ここにお祝いを申しあげる光栄は千載一遇である。

る。(略) 第六回卒業式席上(あの日校庭は北風と折々小雨もあって寒かった) 祝辞の中に挿んだ通り、十周年記念行事として講堂を建てて、これからの卒業式はもとより皆さんの種々の行事が行えるようにしたいと悲願を約束したのである。

木造校舎 第四期工事

昭和三十一年（一九五六）年六月十四日 木造平屋建校舎第四期工事竣工

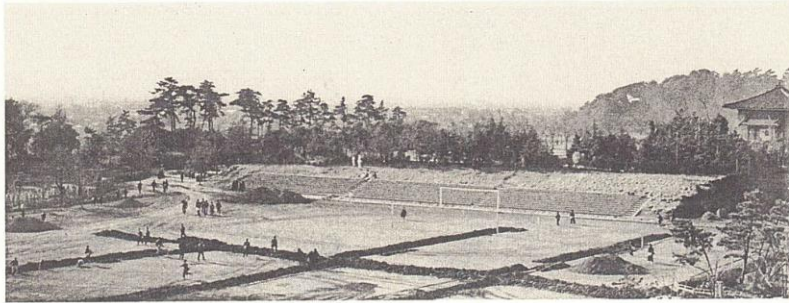
第二期建設校舎の後ろ側に、木造平屋建てモルタル塗りの校舎四教室と便所が増築された。

十月 校庭整備工事のため体育祭を行わず。

それには今から準備実行にかかり、会長を辞めても、この事だけは、今後幾千となく来る同窓生のため成し遂げる覚悟でいる。

このことは、先輩たる二中の輝かしい歴史を築きあげた皆さんへのお願いなのであって、どうか力強い御援助を切望してやまない。(略)

〔市川二中同窓会会報〕創刊号 昭和30年5月



整地作業中の校庭

鉄筋校舎の変遷

完成までにほぼ二十年

旧講堂兼体育館の新設（昭和三十三年二月）により旧木造校舎の全容が整ってからはほぼ三年、校舎の老朽化も目立ち、また、第一次ベビーブーム世代が中学年齢に達し、三十五年以降、生徒数の急増が予想された。三十六年から、いよいよ鉄筋三階建ての本格校舎への増改築が始まった。しかし、三十八年の二期工事完了後は生徒数の急減などもあり一時頓挫した。三期工事への取組みは十一年後の四十九年になる。そして、五十六年三月、四期工事の竣工でようやくブルー付きの堂々とした鉄筋校舎の全容が整った。

このように現在の鉄筋校舎の完成にはほぼ二十年を要したことになる。

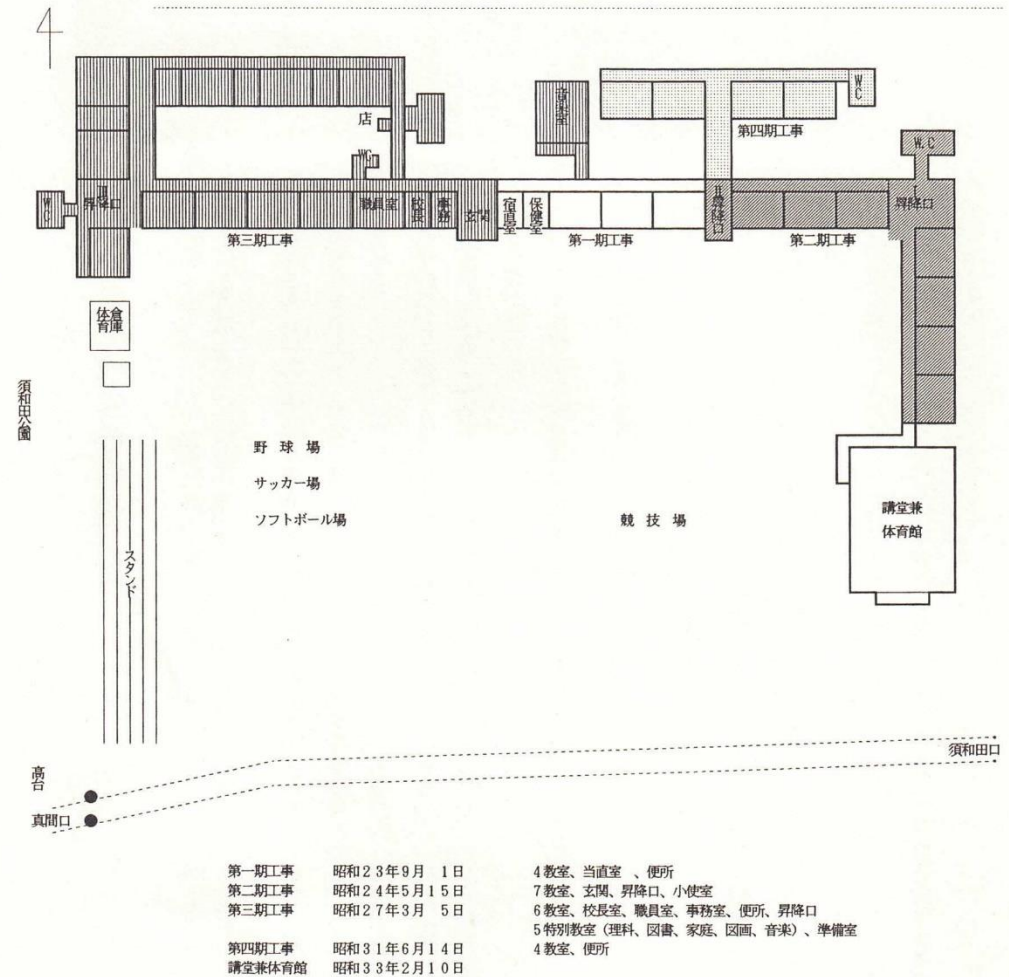
鉄筋三階建校舎 第一期工事

昭和三十六年（一九六二）五月十二日竣工

終戦直後の物のない時代、少ない予算で急造された木造校舎は、当初から床が落ちるなど安普請であった。その上、二中特有の地盤の問題もあり、エネルギーな中学生の使用で傷みも早かったと想像される。

十年後の昭和三十四年の「学校経営要覧」には「老朽校舎の改築促進を計り校舎を整備すること」が学校経営の重点課題の一つとして掲げられている。こうした状況を背景に鉄筋校舎への建て替えがやっと実現することになった。

木造校舎（昭和34年頃）





鉄筋2期完成

昭和三十五年八月、木造二期工事で建てられた旧玄関と東側に続く三教室（二十四年築）、その裏側の四期工事で建てられた四教室（三十一年築）の正面木造校舎七教室が取り壊され、十月に起工式が行われた。

三十六年五月、取り壊された教室跡、残った正面木造校舎よりやや北側（後方）に鉄筋三階建て十二教室が完成し（一、五三八平方メートル）、十二日、落成式が行われた。普通教室が九つ、その他、図書室、音楽室、理科室などであり、三年生、六クラスと二年生、三クラスが入った。

校舎全体の外観は年代、構造（木造と鉄筋）、高さ（平屋と三階）の異なるさまざまな建物が混在し、見栄えは良くなかったと想像できる。また、呼称も複雑で、東側・西向き校舎を第一校舎、正面を東側から第二校舎（今次竣工の鉄筋三階）、第三校舎（三十八年竣工予定）、第四校舎、第四校舎の北側（裏側）を第五校舎と称した（三十七年）。しかし、とにかく近代的鉄筋校舎への第一歩を踏み出したのである。

なお、この時期、第一次ベビーブーム世代が中学年齢に達した昭和三十五年から生徒数は急増、昭和三十七年には過去最高の千三百五人、クラス数も二十七クラスに達した。このため今回の増改築で教室は増えたものの追いつかず、図書室、音楽室、理科室などが転々としており特別教室でやりくりした様子が伺える。

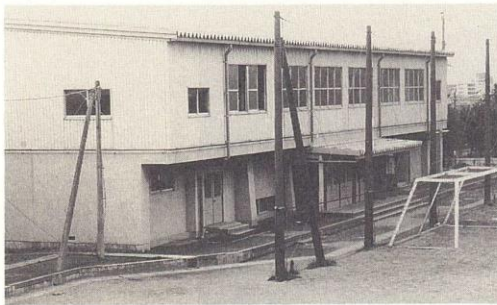
鉄筋三階建校舎 第二期工事

昭和三十八年（一九六三）三月二十五日竣工

つづいて、昭和三十七年七月、正面玄関（第四入口）を残し、木造一期工事として須和田が丘に初めて建てられた最も古い四教室（二十三年築）とその北側（裏側・二十七年築）に残った一教室が取り壊された。

・昭和四十一年、正面校舎前道路整備、自転車置き場（第二校舎前、北側の二カ所）が設置された。

・昭和四十二年、校舎の呼称を東側から東校舎（旧第一校舎・木造一階）、中央東校舎（旧第二校舎・鉄筋三階）、中央西校舎（旧第三校舎・鉄筋三階）、西校舎（旧第四校舎・木造一階）と変更。
・校舎（旧第五校舎・木造一階）と変更。
・昭和四十三年、体育倉庫、石炭庫を設置。西校舎と北校舎の間の中庭に温室もつくられた（昭和四十九年三期工事の際、石炭庫と共に取り壊される）。



新体育館

そして、翌三十八年三月、前年竣工した第二校舎よりやや手前の位置に現在の正面右側の玄関や校長室、職員室、事務室など管理部門と五教室が完成（一、〇二九平方メートル、第三校舎）。放送室、保健室なども整備された。また、建築手順上から他校舎との繋がりがなかった第二校舎とも廊下で結ばれ、三年ぶりに一応全校舎が屋根の下で行き来が出来るようになった。

三月二十五日、来賓、保護者など百二十名を迎えて落成式が行われた。

これ以後、第一次ベビーブーム世代の受入れも一段落し、生徒数、クラス数も減少傾向となる。学校整備の重点は教室増設ではなく、環境整備に向けられてゆく。

新体育館

昭和四十八（一九七三）年五月八日竣工

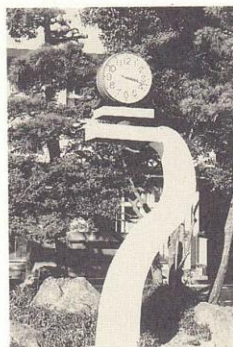
昭和三十三年、当時の学校関係者の努力の結晶として完成した旧講堂兼体育館（四六五・五平方メートル）は四十二年には修理をするなどたびたび手を加えながら、講堂として、体育館として活用されてきた。しかし、体育館としては手狭でもあり新体育館の建設が促進された。そして、四十七年に東校舎の一教室とともに取り壊された。

四十八年五月、倍以上の大きさの鉄骨の新体育館が完成した（一、一五〇平方メートル）。その後、何回か改築され、二階にギャラリーを持つ現在の体育館となった。

スポーツ活動の拠点として、また、須和田祭や芸術文化教室などさまざまな文化活動を支えている。

築山前に時計台誕生

昭和五十（一九七五）年三月、待望の新校舎竣工（五月）を間近に控え、玄関前校庭の松の緑の一角に時計台が設置され、須和田が丘の新名物として姿を現した。これは、四十六年からPTAで積み



時計台

立てられた浄財を基に、生徒の教育に役立つものをとの父母の願いを込めて造られたものである。デザインを担当された美術科の石橋正秋先生は、「稲穂は実ると頭が下がる」つまり内容が充実してくると人間も礼儀をわきまえるようになり、人としての道を踏まえる事が出来る。そのようなことを願いながらデザインしたものである。白塗りの二の台は二中の二をシンボルとした」と記している。電気時計で地下線が校長室に設備した親時計と連絡して調整できるようになっているという。

鉄筋三階建校舎 第三期工事

昭和五十（一九七五）年五月六日竣工

昭和三十八年の二期工事竣工以来、十年以上経ったにもかかわらず、校舎の半分が終戦直後の木造校舎のまま残されていた。この状況を憂慮し、また、生徒数も増加が予想され、増改築、完全鉄筋化への要請が再び高まっていた。PTAでも四十八年には鉄筋化推進の署名運動をして市に訴えた。元PTA会長の東谷清氏は「PTA会報」100号（平成4年3月）に、「もう二十年前のことですが、当時はまだ木造校舎が一部にあって、完全鉄筋化への陳情や校庭土盛り作業等の学校施設の充実に力を注いだ時期でもありました」と当時の思い出を寄稿している。

念願の三期工事は、昭和四十九年六月の市議会で請負工事契約が承認され、直ちに工事が開始された（一、四七九・七五平方メートル、総工費 一億五、八一七万円）。

四十九年六月中に東校舎と体育館の間にプレハブ四教室が完成、一年生の一部が移り、七月には二十七年三月に完成してから二十三年間、約五千人の生徒が学んだ西校舎の一部（正面左側三教室）と旧玄関が役目を終えて取り壊された。

五十年五月、その跡に三階建て十二室の鉄筋新校舎が完成した。一階、校長室の北側にエントランスがあり、中廊下を挟んで南側は、校長室、会議室、保健室、それに二年生、二クラス、二階は図書

校舎の歴史

・昭和五十三年四月、旧式設備の理科教室にやっとガスが引かれ、床も張り替えられる。

・昭和五十三年六月、生徒数急増に対処し東側教室前にプレハブ二教室設置（図書室、ミシン室）、さらに、五十四年三月にも二教室追加設置（普通教室）。



工事進む新校舎

室、三年生、三クラス、三階は三年生、四クラスなどの教室。北側には、各階に配膳室やユーティリティーが置かれた。

この間、校庭が使用できなかったため、校庭でのラジオ体操の代わりに教室でテレビ体操を行った。プレハブ教室での授業など多少の困難はあったようである。

給食調理室（昭和五十二年二月二十六日）

完全給食導入に伴い、西校舎とスタンドとの間に給食調理室が完成した（二八八平方メートル）。

鉄筋三階建校舎 第四期工事

昭和五十六（一九八一）年三月二日竣工

四期工事は、昭和五十五年新たにプレハブ十教室が設置されるとともに（場所不明）、西校舎・北校舎（二十七年築）、体育館側の東校舎（二十四年築）および五十三、五十四年に設置されたプレハブ四教室が取り壊された。

西側と東側と同時に二カ所で、総建築面積二千平方メートルを超える工事は、鉄筋化の掉尾を飾るに相応しい大事業であった。

「PTA会報」65号（55年7月）にはイラストで新校舎が紹介され、「来年は泳げるぞ！」と期待を膨らませている様子が伺える。また、昭和五十年に赴任した美術の斉藤富作先生が「本校は旧校舎が悪く、技術、家庭、美術教室（二十七年築）が学校とは考えられない」と嘆いた特別教室も一新されることになる。

このため五十五年の運動会は校庭で出来ず、代わりに市営体育館で競技大会を行うなど、やりくりも大変だった。当時の高山真木男校長は『すわだ』十四号の巻頭言で「（略）五十五年度は校舎増改



プール開き



鉄筋校舎模型

築工事のため、運動場は四分の一程度に縮小され、また、プレハブ教室使用を余儀なくされるなど、幾多の困難がありました。そうしたハンデをよく克服し、勉学、部活動、生徒会活動に例年に劣らぬ活躍をしてくれました。改めて「ご苦労さん」といいます。(略)と生徒達を労っている。

五十六年三月二日、西側校舎、東側校舎ともに竣工(約二千平方メートル)。

西側校舎は三階建て、中廊下を挟んで南・北に教室が配置され、一、二階で十四教室。

一階は普通教室(二)、図書室、視聴覚室、家庭科室。二階は音楽室(二)、理科室(二)、それに準備室。そして三階は眺望の素晴らしい、横十三メートル、縦二十五メートルの本格的なプールである。

東側校舎は一階建て、技術、美術教室である。

八月には校庭整備も完了し、裏門と自転車置場ができ、国分方面への行き来も大変便利になった。

こうして昭和二十三年と昭和三十三年の十年間で完成した旧木造校舎は総て姿を消し、念願の全校舎の鉄筋化が達成され、プール付き、三階建て校舎の全容が姿を現した。

玄関、事務室、クラブ室増改築(昭和六十二年三月三十一日)

創立四十周年を前に正面玄関が完成した。三期工事で出来た玄関は校長室の北側、正面やや奥まった所にあった。今回の増改築で、玄関は校長室と同じ並びの正に二中の中心に位置し、その横に事務室が置かれるよう設計された。現在の配置である。「PTA会報」85号の校内ニュースには「玄関、事務室完成、検査がすみ次第開館となります。立派で新しい玄関が出来て新たな気分となるでしょう。部室も完成間近、部活動にとってなくてはならない準備室。生徒には嬉しいニュースです」とある。

鉄筋校舎完成後の学校設備面での動きは、維持・補修がメインとなり、その他付加価値の向上で機能の充実が計られている。

プレハブ教室増設(昭和五十八年三月二日)

第二次ベビーブーム世代を迎え、昭和五十七年から生徒数は一、〇〇〇人を超え、六十年には一、二五六人、三十一クラスとなる。クラス数では過去のピークとなった。生徒数急増に対処するためプレハブ四教室(二階建て)を設置。一階は校長室、資料室、二階は理科室と会議室となった。昭和六十三年七月二日、五年間の役目を終えて四教室解体。

雨水貯留施設(昭和五十九年八月三十一日)

雨水貯留施設とは治水対策で、校庭の周囲に堤防を設けて大雨が降った時に、一時的に池のように水を溜め少しづつ真間川に流れ出るように工夫されている。一時間五十ミリの雨量まで対応可能。

学校施設

昭和29年(「特殊学級経営記録」)

平成7年(「市川市の教育」)

*校地

総面積

九、六二九坪(三一、七七六㎡)

一九、六四〇㎡

運動場

一、四〇〇坪(四、六二〇㎡)

九、三四七㎡

校舎・その他

八、二九二坪(二七、三六四㎡)

一〇、二九三㎡

(校舎)

(八二〇)坪(二、七〇六㎡)

*建物

校舎

五〇四坪(一、六六三㎡)

六、四一〇㎡

体育館

(昭和33年)一四二坪(四六五㎡)

一、〇六一㎡(「学校要覧」一、二五〇㎡)

